

# 2022年（令和4年）度 事業計画書



学校法人 京都外国語大学

# 目 次

はじめに	1
<b>I.学校法人京都外国語大学事業計画</b>	<b>2</b>
1.基本方針	
2.財政基本方針	
3.重点取組	
<b>II.京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画</b>	<b>4</b>
1.大学・短期大学のビジョン	
2.学長方針	
3.全体の重点目標と重点事業計画	
4.各部署の事業目標・計画	
<b>III.京都外大西高等学校事業計画</b>	<b>10</b>
1.高校のビジョン	
2.方針	
3.重点取組	
<b>IV.京都外国語専門学校事業計画</b>	<b>13</b>
1.専門学校のビジョン	
2.方針	
3.重点取組	
<b>(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的</b>	
	<b>14</b>



## 「はじめに」

私立大学・短期大学を取り巻く情勢は、ますます厳しい局面を迎えると予測されています。18歳人口の本格的な減少による大学淘汰の本格化など、大学間の競争が激しくなるなか、どの私立大学・短期大学でも、自律的なガバナンスの確保、経営の強化等、より強固な経営基盤に支えられた大学づくりを進めているところです。また、各私立高等学校、専門学校においても、少子化や景気動向、国の政策等の影響を考慮しつつ、生徒・学生の確保に懸命な対策が執られています。

本学園では、2020年4月に外国語学部ロシア語学科の開設、2022年4月に高校にグローバル特進コースを開設するなど、時代の変化に対応した学園づくりを行っています。

教育を取り巻く環境が激変するなか、2022年度に学園創立75周年を迎える本学園では、次の学園創立80周年、100周年につながるよう、教育体制や教育内容に関して不断の見直しを行うなど、社会から求められる人材を育成することを念頭に学園の運営にあたります。

学校法人 京都外国語大学

京都外国語大学

京都外国語短期大学

京都外大西高等学校

京都外国語専門学校



2022年度における学校法人京都外国語大学の事業計画について、次ページ以降に、

- I 「学校法人京都外国語大学事業計画」に続き、4つの設置学校について、
- II 「京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画」、
- III 「京都外大西高等学校事業計画」、
- IV 「京都外国語専門学校事業計画」の順で、その概要を簡潔に説明する。

【注】以下、適宜、京都外国語大学を「大学」、京都外国語短期大学を「短期大学」、両者に大学院を加えて「本学」、京都外大西高等学校を「高等学校」、京都外国語専門学校を「専門学校」などと表記している場合がある。



## I. 学校法人京都外国語大学事業計画

### 1. 基本方針

本学園の将来構想として、安心・安全の学園づくりのため、学園の主要施設の整備を最重要課題とし、これを中核に据えた学園100年プラン基本構想を2020年3月に策定した。

このプランは、「環境整備基本方針」、「財政・予算編成基本方針」、「教育・研究基本方針」からなっており、各方針における中期的な計画に基づき、年度ごとの計画を実施することとしている。

### 2. 財政基本方針

- ・ 学園100年プラン基本構想に基づき策定した「中期財務計画」における重点課題と対策の年度予算への落とし込み
- ・ 中期的な学園整備に向けた財務体質の改善のため、「入るを量りて出ざるを制す」を基本として、収支バランスを維持する

### 3. 重点取組

#### (1) 学園創立75周年記念事業の推進

国際文化資料館の特別展やシンポジウム、その他、大学の学科が実施する教育的イベント等を創立75周年記念行事として実施することとしている。

また、下記的高等学校校舎・体育館耐震整備に係る募金募集活動についても、学園創立75周年事業の一環として、募金委員会や募金実施委員会を中心に学園全体で取り組み、同窓会など関係先に向け、引き続き活発な募集活動を行う予定である。

#### (2) 高等学校創立65周年記念事業「京都外大西高等学校校舎・体育館耐震整備計画」の推進

早期の耐震化完了を見据えた学園施設の環境整備計画の一環として、また、高等学校創立65周年記念事業として実施している高校校舎及び耐震化計画について、令和4年度は校舎・体育館の建設に着手する。

#### (3) ウィズコロナ時代の新たな学園（スマートキャンパス）の構築

スマートキャンパスの実現に向け、ICT教育環境の整備、教育の質保証・研究活動の充実を行うこととしている。



また、働き方改革による業務効率化推進として、ITの徹底活用、業務フローの見直し、勤務体制の整備等を行う。

※「スマートキャンパス」とは…

IOTを媒介にして、大学が行う教育・研究社会貢献などを実現している新しいキャンパスとキャンパスの中での学び方・働き方をいう

#### （４）中期学園施設整備計画（学園整備マスタープラン）の策定

施設整備については、重点事業として2021年度から高校校舎・体育館耐震化事業に着手しているところである。今後の施設整備に関しては、学生の安心・安全はもちろん、教育・研究や財政的諸条件を考慮しながら、中長期的な学園施設整備計画（マスタープラン）を策定し、年度ごと段階的に対応することとしている。



## Ⅱ. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画

### 1. 大学・短期大学のビジョン

#### (1) ミッション

大学・短期大学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」で、本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

この教育理念を達成するため、

- ① 確かな日本語力と実践的な外国語運用力
- ② 社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び外国の文化の理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成する。



#### (2) 目的

##### ① 京都外国語大学

外国語学部は、専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成する。

国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成する。

##### ② 京都外国語大学大学院

学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、文化の進展に寄与する。

##### ③ 京都外国語短期大学

文化の一起因ともいうべき英語を教授研究し、かつそれを根底とする専門職業に重きを置く大学教育と国際活動に必要な教養を施し、国家社会に有用なる人物を育成する。

これらの目的を達成するため、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の3つのポリシーを定め、教育研究を行っている。3つのポリシー及び各学科等の目的については、末尾14頁以降参照。

## 2.学長方針

### すべての人に開かれた質の高い教育を

新型コロナウイルスは、第二次世界大戦以来、かつてない規模の経済および人道的な危機を私たちにもたらしています。一方で、気候変動や環境破壊、核の脅威などにより、国家という枠組みを超えた世界規模の課題が生じています。今、私たちは直面しているこれらの課題を認識するとともに、これからの取り組みに備えなければなりません。本学としては、「すべての人に開かれた質の高い教育を」を方針とし、「人のために、地球のために。誰一人として取り残さない。」という信念のもとに教育研究に取り組んでいきます。2030年までに国連が掲げている持続可能な開発目標を達成することができれば、高等教育はより多くの人々に開かれたものとなり、それによって、貧富や男女間の格差が是正された未来もそう遠くなくなります。

本学は、誰一人取り残されることのない共存共栄の社会実現に貢献できる、地球市民として世界規模のコミュニティに存在する先駆者となる人材を育てていきます。

## 3.全体の重点目標と重点事業計画

大学・短期大学全体の重点目標・計画をカテゴリー別に以下のとおり定める。なお、毎年度末に事業計画と認証評価機関が定める点検項目について自己点検・評価を行うことで、PDCA サイクルを回していく。

重点目標	重点事業計画
<b>&lt;学長方針に対応したミッション&gt;</b>	
①大学コミュニティのメンバーとして、学生一人たりとも置き去りにしない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リメディアル教育を含め学修支援体制の充実。</li> <li>・外国人留学生への支援の充実。</li> <li>・学修成果を的確に把握・測定し改善に活用。</li> </ul>
②ニューノーマルにおける学修者・研究者本位の教育研究活動を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを使った教育内容、教育環境の改善。</li> <li>・学修者の学びの質の向上。</li> <li>・2学部体制に応じた研究体制、研究環境の整備。</li> <li>・アカデミックな知の学内有効活用と社会への発信強化。</li> </ul>



③多様な受験生を確保し、創造性と活力のあるキャンパスを実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科の魅力が伝わる広報展開。</li> <li>各学科の定員割れ危機を起こさない入試戦略。</li> <li>短期大学に特化した入試広報戦略。</li> <li>将来を見据えた入学定員の見直し。</li> </ul>
<b>&lt;第2期5カ年計画の重要政策&gt;</b>	
①外国語学部・国際貢献学部・短期大学の2024年度カリキュラム改定に向けて準備を進める。 また、大学院の再構築についての準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語学部・国際貢献学部・短期大学における新しい教育課程の策定。</li> <li>大学院における観光文化研究領域の円滑な運営と今後の大学院構想の検討。</li> </ul>
②全学的なPDCAサイクルを確立し、内部質保証システムを軌道に乗せる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学的な自己点検・評価の浸透と課題改善の推進。</li> </ul>
③2022年度重点事業計画の目標達成率100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点事業計画における立案、選定、予算、実施、点検・評価の精度の向上。</li> </ul>
<b>&lt;自己点検・評価の結果 全学的課題&gt;</b>	
①学外の様々な団体等との連携を通じて本学が蓄積してきた価値ある教育活動を再評価し、本学の特色ある教育事業へと発展させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学の特色を象徴する PAX MUNDI Project の明確化と組織的に推進できる環境の整備。</li> </ul>
<b>&lt;学園施設整備（学園共通）&gt; [再掲]</b>	
①学生の安心・安全はもちろん、教育・研究や財政的諸条件を考慮しながら、長期的な見通しのもとで計画的に施設整備を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全、防災、環境保全、コンプライアンス等の対策強化。</li> </ul>
<b>&lt;IT化・働き方改革（学園共通）&gt; [再掲]</b>	
①ICT教育並びに働き方改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITの徹底活用による働き方改革と事務作業の効率化。</li> </ul>





#### 4.各部署の事業目標・計画

大学全体の重点目標・計画を達成するため、各部署の事業目標・計画を以下のよう  
に定める。

##### （1）総合企画室

目標：認証評価に向けて一つひとつの課題を着実に解決していく。

計画：・内部質保証システムの点検と機能化。

- ・5カ年計画の全学的な浸透とモニタリングの仕組みの整備。
- ・教職員のワーク・ライフ・バランスの推進。
- ・外部資金の獲得に向けた基盤整備の推進。
- ・IR データを活用した教育改善活動の推進。
- ・建学の精神を具現化する教育の特色づくりとしての「PAX MUNDI Project」  
の推進。

##### （2）総務部

目標：重点目標の達成に向けて、三現主義を実践し、各部署をまとめ、部署間の連携  
を主導する。

計画：・外国語学部ロシア語学科の入学定員見直し。

- ・京都外国語大学マスタープラン（施設整備計画）の作成。
- ・マスタープラン作成のため敷地現況測量調査。
- ・年次計画に基づく学内施設設備不良箇所改修及び整備。
- ・学内ネットワークの高度化。
- ・組織・業務改革の全学的推進。

##### （3）人権教育啓発室

目標：すべての学生や教職員のためハラスメントのない快適な環境を実現する。

計画：・ハラスメント相談体制の充実。

- ・各種人権啓発行事の開催及び人権に関する情報の発信。
- ・教職員に対するハラスメント防止研修の実施。

##### （4）教務部

目標：アフターコロナに向けての教育体制の構築および学部・短期大学の教育課程を  
再編する。

計画：・外国語学部のカリキュラムの見直し。

- ・国際貢献学部のカリキュラムの見直し。
- ・キャリア英語科のカリキュラムの見直し。



- ・教育の質保証と学修成果の可視化を目指すアセスメントポリシーの確立。
- ・CEFR(外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)の理念とルーブリックを用いた語学教育成果の可視化。

#### (5) 学生部

目標：アフターコロナにおける学生支援を考える。

計画：・学生の自主活動の推進と広報。

- ・多様化する学生の学生生活が充実するよう合理的配慮の実践。

#### (6) 健康サポートセンター

目標：学生が有意義な学生生活を送るためのサポート体制を充実する。

計画：・多様な障がいのある学生へのサポート体制の充実。

- ・健康サポートセンターの規程の整備。
- ・学生の健康と安全の管理。
- ・心身の健康に関する広報、啓発の充実。

#### (7) 国際部

目標：本学学生のグローバルな視点と多様性を醸成する。

計画：・留学制度、外国人留学生受入等海外との連携強化。

- ・ダブルディグリーに対応する施策の検討。

#### (8) キャリアセンター

目標：全学年を対象とした幅広いキャリア形成・就職支援体制を構築する。

計画：・社会実践力を養う全学的システムの構築。

- ・組織としての「出口」ネットワークの構築と活用をベースとしたキャリア支援の充実。

#### (9) 入試広報部

目標：社会の変化に対応した入試制度の改革と、広報活動の強化による本学のブランド確立を推し進め、志願者の増加と入学者の質の向上を図る。

計画：・入試制度等改革による一定志願者数の維持。

- ・内部進学増加促進戦略 2023 の推進。
- ・募集広報活動の強化。
- ・短期大学に特化した募集広報活動。
- ・外国人学生募集広報の強化。
- ・教育力の高さを訴求する広報の推進。



(10) コミュニティエンゲージメントセンター

目標：コミュニティエンゲージメント・プログラムや連携事業で関わる外部団体との関係性を強化する。

計画：・コミュニティエンゲージメント・プログラムの拡充と安全な運営。  
・グローバルな地域貢献活動の推進。

(11) ランゲージセンター

目標：(1)グローバル市民育成を目指し、多様な学生の個別性を捉えたうえで語学学習を基盤にした学びの適切な支援を行う。

(2)地域へのエンゲージメントの基盤を整備する。

計画：・日本語能力診断テストの充実と拡充のための調査・準備・実施。  
・学生の主体的な学習を促進する学習環境の構築。  
・学科との連携によるピアサポート教育の充実と実践。

(12) 図書館

目標：図書館業務の三要素（資料の収集、整理・蓄積、提供）の円滑で効率的な遂行と同時に、新しい図書館の魅力を創造する。

計画：・貸出・返却システムのチップ式への移行。（2年目）  
・稀覯書資料のデジタル化の推進。  
・閲覧業務の外部委託。  
・閲覧室の環境改善。

(13) 国際言語平和研究所

目標：教員研究向上を目指し各教員に合わせたサポートを行う。

計画：・研究の質を上げるための研究環境の整備。  
・国際貢献学研究、コミュニティエンゲージメント研究の推進。

(14) 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所

目標：ラテンアメリカ地域に関する学術研究を深化させ、研究成果を発信する。

計画：・教養講座をはじめとするラテンアメリカに係る講演会、研究会、シンポジウムの開催。  
・研究成果として、『いえらっく』、『紀要』、『IELAK Publication Series』を発行。



## Ⅲ. 京都外大西高等学校事業計画

### 1. 高校のビジョン

「不撓不屈」の精神に則った総合的人間育成

本校の建学の精神「不撓不屈」は、学園創立者の出身地、会津若松の藩校「日新館」の教育において、「不撓不屈」の精神をもって断固として困難に立ち向かう「ならぬことはならぬ」の教えが貫かれていたことに由来しており、「なし得ること、なさねばならぬことはたとえどのような困難をともしなう場合であっても、不撓不屈の精神をもって断固として貫徹せよ」との教えである。

「不撓不屈」の精神によって培われたたくましさ。すべての礎となる基礎・基本を徹底的に養っていく持続力。あらゆる問題に挑み、優れた発想と柔軟な思考で解決する能力。この3つの「未来を拓く力」を身につけた生徒の育成を目的とする。

### 2. 方針

本年度は新学習指導要領の運用開始年度に当たり、新しい学力観（主体的、対話的、深い学びによる思考力、判断力、表現力の育成）に基づいた授業、特別活動、部活動内容を展開し、京都外国語大学の併設校としての特色を一層発揮しつつ、京都外国語大学に生徒を送り出す使命と自負を持って引き続き「グローバル化推進」「ICT化導入」を優先して教育を行う。大学が求める学力育成にあたることはもちろん、生徒自身の大学での学びの自覚及び志向する志望学部のための高大連携を深め、連携事業を展開し、連携を密に、双方により実効性のあるものとしていく。また、京都外国語大学希望生徒だけでなく、他大学志望生徒の学力向上を図るためにも、より一層活発な教職員間の議論・情報共有を行い、教育・生徒指導力の向上を図ることで、教育の質の向上を目指す。

### 3. 重点取組

#### （1）高等学校創立65周年記念事業「京都外大西高等学校校舎・体育館耐震整備計画」の推進

高等学校が大事にすべきものは何か、これからの生徒が育っていく空間としてどのようなものがふさわしいのか検討を行い、以下の①②を第一に使いやすさや生活空間としての快適さも十分に考慮し、生徒たちが学校で過ごす時間を楽しいと思え笑顔があふれ、何十年も使い続けることが出来る校舎等とした。2022年度は、6月に校舎・体育館の建築に着工する。

①生徒及び教職員にとって自然災害時や新型コロナウイルス等の感染症拡大予防に対応できる教室の広さや換気設備を有する安心・安全な設備・建物であること。

②2022年度入学生からの教育課程改定に伴い、生徒達がパソコン・タ



タブレット等を使用したICT化授業に対応できるWi-Fi環境やプロジェクター等の整備がされていること。

また、本事業に係る募金募集活動については、本校教職員らが中心となり法人事務局とも連携しながら、募金活動の推進、本校の同窓会及び後援会への協力を要請することとしている。

## （2）教育に関すること

### ①ICT教育の推進及び導入

新学習指導要領の運用開始の年であり、新しい学力観に基づいた授業の展開等を開始する。

また、ウィズコロナ時代の授業等の対応策として、本来の授業形態に拘らず、パソコン・タブレット・プロジェクター等を使用した授業を中心とし、自然災害や感染症による長期休校の事態に備えて、オンライン授業の充実だけでなく、土日祝日や長期休暇中の進学対策や学力低下生徒への学力向上を図ることにもつなげる。

その他、地方公共団体や海外の姉妹・交流校並びに模擬国連参加校とのインターネットによるネットワーク構成やイントラネット等の研究を進め、本校が中心となって国内や世界に発信できる力を育成する。

### ②新学習指導要領の運用

特に新1年生は新学習指導要領の運用初年度にあたる生徒であり、「方針」にあげたものの他「総合的な探求の学習」への対応など、教職員が研修重ね、効果的な方法を実行する。

### ③グローバル化の推進

2022年度の学習指導要領改訂に伴い、コース再編を実施し、グローバルスタディ化を推進した教育課程改定を実施する。また、京都外国語大学との連携強化の一環として、外国語教育の充実を図るため、第2外国語授業の再開をめざす。

## （3）学校運営に関すること

### ①教職員の働き方改革（業務のIT化）

現在、教務・入試・進路・保健室・事務、それぞれが別々のシステムやソフトで管理している生徒情報の一元化を図り、システムの利便性を高めることにより、会議や処理時間の軽減を図る。

これにより、教科研究及び生徒指導の時間が増加し、教育・生徒指導力の向上が見込まれる。



②教科科目・校務・部活動の適正化

- ・教科科目については、コースの再編も含めての教育課程の見直しを行う。
- ・校務については、業務のIT化推進及び担当教員の見直しを行う。
- ・強化クラブと一般クラブの棲み分けを実施。成果を毎年度確認し、人員配置の見直しを図る。

③生徒募集について

中学校との連携を深め、質の高い生徒の確保につなげる。また、ITを利用した広報活動を推進し、担当者だけでなく、全教職員で募集対策を進める。

④同窓会について

2019年度に同窓会総会を実施し、役員・会則等の改定を行った。今後も引き続き活発な活動や情報発信を行い、同窓生同士の情報交換やネットワーク構築、母校や後輩の発展への協力を仰ぐ。



## IV. 京都外国語専門学校事業計画

### 1. 専門学校のビジョン

「アジアを学ぶ」をテーマに誕生した本校は、京都外国語大学のグループ校として、建学の精神「言語を通して世界の平和を」を掲げ、実践的で堪能な外国語能力の養成を図り、その能力を基盤として、多様な社会の要請に即応し得る専門的スキルを修得させるとともに、常に人格の陶冶に努め、広く海外文化に通じ、幅広い国際的感覚と国際社会人としての豊かな人間性を身につけた、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。

### 2. 方針

- (1) 18歳人口減少期にも生き残れる（選ばれる）専門学校を目指す
  - ・語学力を身に付けさせて、目標を達成させることができる学校
- (2) 定員の確保と経費節減を図る

### 3. 重点取組

- (1) 学科の再構築
  - 京都外国語専門学校創立25年間の総括として、英中韓を中心に次代につながる基盤作りとして、学科の再構築を行う。
- (2) 京都外国語大学グループ内の連携強化（高専大の連携）
  - ・京都外国語大学が目指す多言語教育の一翼を担うために、アジア圏の言語（中国語、韓国・朝鮮語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語）を中心とした学びの場の提供。
  - ・高・専・大（京都外大西高等学校、京都外国語専門学校、京都外国語大学）の連携の下に、複数言語の修得が目指せる教育システムの構築。
  - ・ネイティブ教員を中心に、「話す」「書く」のいわゆる実践力の能力開発を行い、京都外国語大学へ編入させることで、大学の質の向上に貢献する。
- (3) IT環境整備
  - アフターコロナに向けての取り組みとして、遠隔授業と対面授業の特長を生かしながら、より効率的なカリキュラムによる授業が提供できる環境作りを行う。





## 3つのポリシー

<b>京都外国語大学</b>
<b>外国語学部</b>
<b>ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）</b>
<p>外国語学部は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。</p> <p>① 構想するために必要な力          私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。</p> <p>② 実践するために必要な力          自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。</p> <p>③ 協働するために必要な力          立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者ととも実現していく（多文化共生力）ことができる。</p>
<b>カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）</b>
<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 専攻語教育の必修科目において専攻言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。定期的に学内統一試験や外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。</p> <p>③ 専攻語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p> <p>② 必修科目における外国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。</p>





<p>③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。</p> <p>【学習成果】</p> <p>① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。</p> <p>② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力 専攻する言語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。</p> <p>③ 世界が抱える諸問題の理解 専攻言語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。</p> <p>【評価】</p> <p>本学部では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。</p> <p>① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績</p> <p>② 語学の到達度を測る資格試験や統一試験におけるスコア</p> <p>③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究</p> <p>各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は <a href="https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html">https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html</a> に掲載。</p>
<p><b>アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）</b></p> <p>本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会で十分に通用する実践的な外国語運用力を身につけるとともに、専攻語圏及び自国の文化・歴史・政治・経済などに関する専門知識、そして、外国語運用力を活かすための幅広い知識と豊かな教養を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。</p> <p>【求める学生像】</p> <p>① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人</p> <p>② 実践的な外国語運用力の修得に意欲を持っている人</p> <p>③ 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人</p> <p>④ 外国語を学ぶ上での適性と基礎学力を有する人</p>

<p><b>京都外国語大学</b></p>
<p><b>国際貢献学部</b></p>
<p><b>ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）</b></p> <p>国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことができる人材を養成することを教育目標としている。</p>
<p><b>カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）</b></p>



国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、専門科目に加えて必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に大別している。  
各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は  
[https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv\\_ge\\_mission.html](https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_ge_mission.html)  
に掲載。

**アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）**

グローバルスタディーズ学科

【求める学生像】

- ① 英語をはじめとする外国語の高い能力を有し、さらにその能力の向上をめざす人
- ② 何事も主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人
- ③ 外国語のコミュニケーション能力を駆使して、積極的に国際理解を推進しようとする人
- ④ 国際社会のさまざまな諸問題に興味や関心を持ち、国際協力に従事したいと考えている人
- ⑤ 国際ビジネスの専門的知識を身につけて、国際社会で活躍したいと考えている人

グローバル観光学科

【求める学生像】

- ① 何事にも主体的に、積極的に取り組む意思のある人
- ② 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人
- ③ 観光を通して異文化や自文化を理解するとともに、実践的な外国語のコミュニケーション能力を養うことによって、国内外のグローバルな環境で活躍したい人
- ④ 観光を通して地域の活性化に貢献したい人
- ⑤ 国際観光文化都市・京都をはじめ国内外の観光資源に興味を持ち、観光政策を立案・実践したい人

**京都外国語大学**

**大学院外国語研究科**

**ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）**

外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としている。

**カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）**

外国語学研究科は、言語文化と言語教育の専門分野に関する研究コース（領域）を有することを活かし、専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としている。

博士前期課程は、言語コミュニケーションに重点を置いた言語・文化・観光の学際的、総合的研究、並びにその応用としての言語教育・学習方法論。観光文化の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

**アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）**



本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

博士前期課程

- ① グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人
- ② 教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人
- ③ 言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人

博士後期課程

- ① 国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人
- ② 従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人

京都外国語短期大学

キャリア英語科

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

キャリア英語科は英語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。

【教育内容】

- ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。
- ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。
- ③ 英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。
- ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。
- ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。

【教育方法】

- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
- ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。



③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学習成果】

① 語学力の育成

大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。

② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力

英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。

③ 世界が抱える諸問題の理解

英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

キャリア英語科では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績

② 語学の到達度を測る資格試験におけるスコア

### アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力と、ビジネスの分野に必要な知識・技能を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人

② 英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人

③ 幅広い知識とビジネススキルの修得に意欲を持っている人

④ 観光文化・観光ビジネスの分野に興味や関心を持っている人

⑤ 学力を活かして4年制大学に編入学を望む人

⑥ 英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人



## 【京都外国語大学 学部学科の目的】

外国語学部	
専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域・文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
英米語学科	専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
スペイン語学科	専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
フランス語学科	専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ドイツ語学科	専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ブラジルポルトガル語学科	専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
中国語学科	専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
日本語学科	専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
イタリア語学科	専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。



ロシア語学科	専攻語としてロシア語の確かな運用力を備え、ロシア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
<b>国際貢献学部</b>	
世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことによってグローバル社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。	
グローバルスタディーズ学科	地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、新たな価値を創造する人材を育成することを目的とする。
グローバル観光学科	観光に関するグローバルかつ総合的な観点から、様々な地域の課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

### 【京都外国語大学大学院 外国語学研究科 課程の目的】

<b>前期課程</b>	
広い視野に立って精深な学識を授け、言語文化及び実践言語教育の専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化コース	英米、ヨーロッパ・ラテンアメリカ、東アジアの3地域または、観光文化研究を軸にした言語・文化・観光の専門的知識や国際社会に貢献できる専門的能力を修得することを目的とする。
実践言語教育コース	創造的でかつ柔軟な対応力を備えた英語教育又は日本語教育のスペシャリストとしての能力を修得することを目的とする。
<b>後期課程</b>	
言語文化及び言語教育の専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化領域	最新の学術研究の探求を通じた言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力を修得することを目的とする。
言語教育領域	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力を修得することを目的とする。

### 【京都外国語短期大学 学科の目的】

<b>キャリア英語科</b>	
キャリア英語科は英語の学習を通して、高度な語学力、地域や文化についての専門知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	

**KUFS 75<sup>th</sup>**

京の先に、続く世界へ